

## 2023年度第1回豊岡市障害者自立支援協議会全体会議 会議録要旨

注) 会議録については、発言内容を一言一句正確に整理したものではありません。  
発言内容をもとに一部表現(文言)を変えて表記している箇所があります。

- 日 時：2023年11月6日(月) 13:30～15:15
- 会 場：豊岡健康福祉センター 3階 第2会議室
- 出席者： 16名
- 欠席者： 5名
- 傍聴者： 2名

### ○会議要旨

#### 1 開 会

#### 2 あいさつ

#### 3 委員の紹介

#### 4 報告・協議事項

##### (1) 会長及び副会長の選出について

会長 田中 正義 委員

副会長 田垣 正晋 委員

##### (2) 事務局からの報告について

- ・ 資料に基づき説明

##### (3) 部会及びグループの取組について

###### ① せいかつ部会

- ・ 資料に基づき説明

###### ○ 質疑応答

###### 【A委員】

どことも人手不足と言われる中で、障害者が障害者を助ける、自分ができる手助けをする、できる仕組みを作られた事をとても嬉しく思って聞かせていただいた。養成された後の雇用先が課題に出ているが、具体的にどのような事業所に雇用をしてもらうのか、雇用と仕事の仕方の展開について何か考えておられたら教えていただきたい。

**【せいかつ部会長】**

アルバイトのような形で少しずつ利用者に慣れていただき、ゆくゆくは事業所に雇い入れてもらう。通院時のヘルパーという形で働けるような仕組みを作っていきたい。まずは負担の無い短時間の仕事をしていただくことをイメージしている。

② しごと部会

- ・ 資料に基づき説明

**【B委員】**

しごと部会で現状、課題に合わせて議論をされているが、就労系の事業所が集えるような場を持つことができないかの議論をされたことがあるか教えていただきたい。事業所が集まって情報交換をしながら就労移行に繋げられるような場合、どのようにしていったのかとかいうようなことを議論することも有効かと思う。

**【しごと部会長】**

かなり前になるが、就労系のサービス事業所のサービス管理責任者に集まっていただいて、今の課題が何かということを話し合っていた。その当時の課題はあまり解決してない感じは受けている。

**【B委員】**

課題としては変わらなくても、その時その時で事業者も増えている。定期的集まる機会を持ち、議論等できたらいいかと思う。

**【しごと部会長】**

部会に持ち帰り、検討していく。

**【C委員】**

2点ほどお聞きしたい。まず、現状と課題の、企業からの仕事を開拓する人財に余裕がないというところであるが、B型作業所であれば目標工賃達成指導員の加算とかがあるので、ある程度人件費とかで賄える部分もあろうかと思うが、そもそも人材が来ない、人が来ないことが課題か。

**【しごと部会長】**

人材自体が少ないというのが現状としてあると思う。

**【C委員】**

目標工賃達成指導員として配置したとしても、結局は目の前の作業に追われてしまう現状があるのか。

**【しごと部会長】**

目標工賃達成指導員もそうだが、施設においてはサビ管も作業に入っているということを知っている。追われているのが現状かと思う。

### 【C委員】

私も何年か前にサビ管の集まりに参加した記憶がある。その時もやはりサビ管の多くが現場の仕事に追われているという話が出ていたのがすごく印象的であった。未だその課題が変わらず続いているのかと思って聞かせていただいた。

もう1点。仕事をマッチングさせる仕組み。障害者版のシルバー人材センターのようなイメージでいいか。

### 【しごと部会長】

兵庫県下に兵庫セルフセンターというところがあると思う。そこをイメージしている。シルバーセンターと掛け合わせたような形を考えている。

### 【C委員】

現時点で市がするのか、民間に委託をするのか。その辺はこれから検討されていくのか。

### 【しごと部会長】

民間でするにしろ、豊岡市にお願いするにしろ、将来的には提言させていただいて何かしらの形を取らないといけないという風に考えている。

### 【副会長】

仕事の件について言うと、県立大学は数年前に開学している。コウノトリの方もいる。その職員ですべての仕事を賄うことはかなり不可能で、少し仕事を外に出したというのが出る。すり合わせをする組織とかコーディネーターというやり方とアナログ的にやっていくのと2通りあると思うが、何がしかのつてを使って頼むこともありなのかなと思う。また、大学にとっても地域とのつながりを作ることができるし優先調達推進法の義務もあるので、決して悪い話ではないと思う。

もう1つ。公共交通が使いにくいという話。便数が減る動きは止められないと思う。

今、豊岡市が、デジタルでバスに乗り降りする実証実験をしていることが議会等々で言われているが、実はああいうものは、障害者は難しいからできないという風に思いがちだが、決してそんなことない。デジタルの方が使いやすいという実証は結構ある。テクノロジーイコール障害者にとっては使い勝手が悪いからというものもあるが、一方で、それを障害者にとっても使いやすくしていかないと、これからの公共交通はどんどん取り残されていくと思う。

かつて自立支援協議会で都市整備と一緒にバスを使ってみようというのをされたと思う。特にコロナを経て公共交通のあり方はがらりと変わっているので、そういう取り組みをもう一度されてもいいのかなと思う。公共交通は大都市圏でもかなり厳しい。だから豊岡はもっと厳しい感じだと思う。色々と面白い貴重な活動もされているので、自立支援協議会の枠を超えた話ではあるが、高齢者を含め、障害者の方にも参加していただくというのもありなのかなと思って聞かせていただい

た。

#### 【事務局】

今回、しごと部会で、事業者の雇用先の開拓、当事者の雇用先への就職のための登録、あるいはマッチングというところで様々な課題があるということを知った。社会福祉課の就労支援員をぜひとも活用していただき、協議を進めていただけたらと思う。

#### ③ こども部会

- ・ 資料に基づき説明

#### 【D委員】

知的障害の子どもについては、かなりの数、放課後等デイサービス、児童発達支援を利用されているが、聴覚障害に関しては、コミュニケーションの問題もあってなかなか受け入れていただく事業所がない。それで、豊岡聴覚特別支援学校が果たす役割が大きい。新生児聴覚スクリーニング検査の実施がほぼ100パーセントであることから現在、豊岡聴覚特別支援学校では早い子で3ヶ月で相談につながる。3歳の幼稚部入学まで個別には月に2回程度の教育相談を行い、さらに集団の教育相談なども実施して、できるだけ多くの保護者に来ていただき、支援できる取り組みを行っている。3歳になり幼稚園に入学すると、毎日教育として支援が受けられるわけだが大きな課題が今現在ある。

これは、全ての聴覚障害の学校で今、言われていることだが、現在は保護者が就労されているケースが大変多い。そうすると、幼稚部の保育のあと午後2時ぐらいから保護者の仕事終了までの時間帯をどう子どもが過ごすのか。福祉サービスは小学生のようにはない。母子での通園という形のサービスになるので、とても仕事は続けられない。さらには、夏休みがある。学校なので夏休みがあるが1ヶ月丸々仕事を休むわけにはいかない。幼稚部にせつかく毎日来られるのに、幼稚部に入りたくても入れない。そして、地域の保育所、こども園にお世話になる。

その中で最も聴覚障害にとって教育の効果の高い幼児期の、小学校就学までの言葉を獲得する時期の支援ができないというジレンマを抱えている。これは、福祉サービスや事業所に全てを担ってもらおうということではなく、本来行政側が、保育所等の受け入れも含めて考えていくという、その町で生まれた聴覚障害の子どもたちをどう育てるのかということを考えていくという課題だと思うが、このような課題があるということも伝えたいと思うので、一緒に考えていけたらと思う。現在、豊岡市の子どもたちで1歳児、これから幼稚部に入る子どもたちが7名、豊岡聴覚特別支援学校にはいる。さらに先日、4名ほど繋がりそうなケースの赤ちゃんの相談が来ている。これだけの数、豊岡にいるということなのでまた考えていきたいと思う。

### 【B委員】

いろいろな取り組みをされていて、各部会が素晴らしいとは思いますが、現状と課題というところで、例えば障害福祉サービス、対象者が増えているにもかかわらずなかなか利用できる方が少ない。本人のライフステージを切れ目なく支援していきたいというところとか、障害が分かった時からチームで支える仕組みが課題にあがっていると思うので、このところは今も課題として残っているのかなと思う。

で、今年度はまずここに書いてあるお話カフェ等々に取り組んでいこうと進めておられると思うし、内容によっては、事務局が取り組む必要があるのかなと思うこともあるが、部会の中で今申し上げたようなことに関して何か議論がなされたことがあるのだとすれば教えていただきたいと思う。

### 【こども部会員】

療育がいっぱいというところで、療育の事業所に、集団で入れなくても、なんとか月に1回とか2回。お母さんの状況に合わせて、個別の相談をとっていただけないかということで、何もないうまま待機ということがないようにやっていくことは、課題を共有した各事業所に少し幅を持たせて受け入れをお願いをしている。

それから、ライフステージをというところも、お話カフェをすることでこの子たちが何に困り、今どのようなことを伝えればいいのかということの気づきがあると各事業所の方にも言っている。また、お話カフェの感想の中で、お母さんたちの気づき、支援者の気づきは共有したりはしている。

### 【B委員】

先を見越して今を支援していかないといけないとなった時に、各相談員さんたちもまたそういうところのつなぎみたいなことをしていただけるとありがたいなと思う。

### 【こども部会員】

部会の中にもたくさんの方に入っているから、そうだんグループ等で課題感があつた時に、次の取り組みにつなげていけたらと思う。

#### ④ はっしん部会

- ・ 資料に基づき説明

#### ⑤ そうだんグループ

- ・ 資料に基づき説明

### 【副会長】

相談員1人あたりの平均の件数について、実際ばらつきがあると言われたが、具体的な数値として根拠は出るか。

**【そうだんグループ代表】**

それぞれが持っている件数は調べてある。

**【副会長】**

ばらつきを出すのであれば、標準偏差、最小値最大値あるいは各相談支援員の所属組織によつての平均値の差があるとかをエクセルで出す。そうすることにより相談員の負担がわかる。数字遊びではなく、もう 1 つデータがあった方が説得力のある数値が出ると思う。

(4) 豊岡市障害者自立支援協議会から計画策定への提言のとりまとめについて

- ・ 資料に基づき説明

**【A委員】**

精神障害者にも対応した包括ケアシステムの構築の中で、課題が「－」になっているのは、課題がないということか。長期入院がまだまだ多いということとか、グループホームがいっぱい、入りたいが入れていないというような現象があるが、部会では特にこのことは出なかったのか。

**【事務局】**

課題がないということではなく、継続した案件ということで「－」を書いている。

**【A委員】**

課題が無く提案から始まっているので、課題の記載をお願いできたらと思う。

**【E委員】**

先ほどのA委員からの質問ですが、その他の地域生活支援の充実のところの課題がかぶっているところがあり、そこをどうまとめるかということがちょうせい会議の中でも話が出た。内容的には一緒なのかなと思っている。でもやはりあえて書いた方がいいのか。

**【A委員】**

課題が何もないと認識をされないか。提案のところの目的がこの課題にあがると思うので。他とかぶっているのであれば課題を一緒にして提案を分けて書くなど工夫をして欲しい。

**【副会長】**

単純に「以下のとおり」と書けばよい。

**【会長】**

誰が見てもわかるように課題を表記していただきたい。

**【副会長】**

自立支援協議会からの提言をどう計画に取り入れるのかはなかなか難しい。提言をどう振り分けるかは他の自治体でも定着した形式はない。本文に入れるのか、本文の中のコラムみたいなもので入れるのか、あるいは資料編に入れるのか。いく

つかやり方があるので皆さんに考えていただいて、ご議論いただきたい。もちろん、これ以外のまとめ方もある。

#### 【会長】

副会長から提案があったが、いかがか。何か意見あれば、今後参考にさせていただきたい。

やはり提言なので、計画の中に位置付けていただくことが協議会の本心だと思うが、どうするかは計画策定の中で決められることなので、協議会として意見があれば参考までに聞かせていただきたい。

特にないようであれば、今日の意見を踏まえて、会長、副会長とちょうせい会議、事務局等で今後協議して調整させていただき、計画にどう載せるかというのはこちらで調整させていただいてよろしいか。今日、一番重要な提言のところの協議のため、十分時間を取りたいと思っているので、何か意見、質問もあればお願いしたい。

意見がなさそうなので、先ほど言ったように、今後の調整、修正については、会長、副会長、ちょうせい会議代表者、事務局で行っていきたいと思うので、ご承置きをいただきたい。

その他会議をとおして意見があればお願いしたい。

#### 【C委員】

先程しごと部会の時に事務局から超短時間雇用の話が出ていたかと思うが、このことに関してはしごと部会と一緒に中身を考えていくようなことはされていないのか。社会福祉課から就ポツとハローワークに直接相談いただいて、どうやって進めていこうかというような話をいただいて、今まさに候補者を絞って動いていこうというところまで来ているが、超短時間雇用となると、企業にとってのメリットが課題である。現在週 20 時間以上超えると障害者雇用の法定雇用率の算定ができるが、週 20 時間をわると算定ができない。来年度からは精神障害の方、重度の方に関しては週 10 時間以上 20 時間未満の方も 0.5 カウントできるようになるという風には聞いてはいるが、対象外になると企業にとってメリットはなかなかない。企業相手に話を進めていく際にメリットがあった方が進めやすいのではないかという話はさせてはいただいていたが、せっかく豊岡市が超短時間雇用を進めておられるので、しごと部会も何か絡んでいかれたりすることはないのかなと思う。その辺を教えてほしい。

#### 【しごと部会長】

前回のしごと部会の時に、豊岡市から超短時間雇用の話を受けた。次回の部会ぐらいにその話ができると思う。

#### 【A委員】

直接このことではないが、保健所でALSなどの難病の患者さんに関わって

いる関係で、重度訪問介護のヘルパーがすごく足りなくて、対応ができていないという事実がある。一部は自薦ヘルパーみたいなことで、ここの事業所ではないが、丹波の事業所に所属してもらって対応している方がある。先日、新聞で見られたかと思うが、ALSの患者さんで、1日24時間の訪問看護、介護をということで裁判を起こされた方があり、それを主張はしないといけないという判決が出た。その24時間のうち2時間の往診、ヘルパーを除いて22時間が妥当だろうと判決が出ているが、こういうニーズのある方が出てくればそうしないといけない時代に、人不足だけでは理由が立たないような時代になってきているという状況をお伝えしておく。

## 5 その他

## 6 閉 会